

## <概要>

災害による直接的な被害による死を免れても、その後無くなってしまいう命がある。それは災害関連死と呼ばれる。災害対策を考える時、つい直接死ばかりに目がいきがちだが、関連死を無くすことはできないのだろうか。過去の災害関連死の事例から、避難所の環境が悪い、亡くなっている人の多くが高齢者である、精神的負担の配慮が足りていないという3つの課題が見えた。災害関連死に対する国レベルの対策は存在するが、それでも関連死は無くなっていない。そこで、もっと身近な所から始められるような新たな取組を3つ提案したい。

1つ目は避難所での病気を防止するテント、2つ目は要配慮者の体調を観察し迅速な初期治療を目指すシステム、そして3つ目は避難生活等でのストレス負担を軽減させることを目的とした取組である。いつどこで自然災害が発生してもおかしくない日本だからこそ、災害関連死について多くの人に考えてみてほしい。